

いよいよ開催！ 第19回全国農業担い手サミットinぎふ

清流の国ぎふ
マスコットキャラクター
ミナモ



清流の国ぎふ
ミナモ通信

広げよう！つなげよう！未来の農業へ ～ともに語ろう清流の国で～

県内外の農業の担い手約2200人が一堂に会する「第19回全国農業担い手サミットinぎふ」が、11月10日、11日に開催されます。交流を通じて農業経営の現状や課題についての理解を深め、地域農業・農村の発展につなげることが目的です。

今後5年間で、2000人の新規就農者を育成する「担い手育成プロジェクト2000」を推進する岐阜県。就農相談から営農定着までを一貫して支援する「岐阜県方式」を全国の農業関係者へアピールしていきます。また、そういった「岐阜県方式」の研修や就農・技術・経営支援に留まらず、地域に溶け込めるまでをサポートし、「稼げる農業」と「農村生活」の両面から支えていきます。

■問／農業担い手サミット推進事務局 ☎058(272)8246

information

第19回 全国農業担い手サミットinぎふ

日時 11月10日(木)・11日(金)

場所 岐阜メモリアルセンター、県内10地域

主催 第19回全国農業担い手サミットinぎふ実行委員会
一般社団法人全国農業会議所

内容 全体会(10日)…全国優良経営体表彰・サミット宣言ほか
地域交流会(10日・11日)……情報交換会・現地研修会



全体会には、案内人として俳優の紺野美沙子さんが出演！岐阜県出身でテノール歌手の城宏憲さんが国歌を独唱します

地域ぐるみで新規就農者を応援！ 就農応援隊

県では次代を担う新規就農者の育成、確保を加速化するため、「就農応援隊」の設立を進めています。就農応援隊は自治会や民間企業、商工会、金融業界など、農業関係者以外で構成されているのが特徴です。地域が一丸となって、新規就農者をトータル・サポートします。



就農応援隊第1号となる中濃就農応援隊の結団式

担い手サミットに向け一致団結！ 100日前イベントを開催

8月3日、「全国農業担い手サミット総決起大会～100日前イベント～」が開かれました。県内の農業関係者・高校生・大学生など約580人が参加。今後の就農や経営の参考になるよう、県内の意欲ある青年農業者5組が発表しました。ロビーには就農応援隊の「応援宣言」が飾られたほか、未来を担う農業高校生たちの取組みが展示されました。



「中濃就農応援隊 応援宣言」と題されたパネルには、新規就農者をどのように支援していくか、各構成員の決意が書き込まれていました

明日の農業を支える 青年農業者にインタビュー

11月に初収穫！期待を胸に奮闘中

三重県で製造業に従事していた竹内浩太郎さん。一次産業への就業に憧れ、妻の由佳さんと1年間岐阜県就農支援センターで研修を受けました。9月から海津市で冬春トマトの栽培を始めています。付近に就農した同期生もいて、相談し合うことも多いそう。「センターで学んだのは、冬春トマト栽培の先進的な技術。まだ日本で使われることが少ない技術なので、今後始める方たちの見本となりたい」と浩太郎さん。夫婦二人三脚で夢を追います。



岐阜県就農支援センター
修了生
竹内さん夫妻

柔軟な発想で新たな価値を創造

関市でブルーベリー農園を営む野村久良さん・佳子さん夫婦。始めた当初は、栽培法が確立されていなかったそう。応用できることはないか、他の作物の栽培法を調べ、道を切り開いてきました。丹精込めたブルーベリーを生かすべく、加工品作りも開始。妻の佳子さんがジャムやドーナツなどを製造しています。「農業は未知の分野。だからこそ、人とのつながりが大事。一人で抱え込まず、相談する機会を持ってほしい」と久良さんは呼びかけます。



Blueberry garden紫屋
野村さん夫妻